

◇始業式(1月8日<正直になるには>)

相変らず暗い気持ちにさせられる事件が多い。いろんな事件が報道されますが、私が一番腹立たしく思うのは、多くの人の手本となるべき責任ある立場の人が、無責任なことをして、追求されると、嘘をつくなどして逃げようとする事です。天地神明に誓ってなどと言っておきながら、間もなく嘘がばれてしまうことが多いようで、潔さがありません。

皆さんも一度や二度、経験したことがあるのではないかと思います。正直に話さなくてはならない時に、ドキドキした経験はありませんか。嘘をついたらどんなに楽かと考えたことはありませんか。正直に事実を話すには勇気が必要だったと思います。世の中には、嘘について事実を認めようとしない人がいますが、こういう人は勇気のない人間、臆病者であると思います。

※ある問題行動に関わった数人の生徒がいました。一人を除く全員が事実を認めましたが、一人だけは頑として認めませんでした。私は、事実を認めた生徒達に、「みんなは彼の友人か」と聞くと、皆が友人だと答えました。そこで、「事実を認めることと、嘘を突き通すことでは、どちらが先生の信頼を失うと思うか」と聞けば、嘘を突き通すことと答えたので、正直に話すよう説得すべきであると話しました。「できるか」と聞くと、できると答えました。それから間もなく、事実を認めなかった生徒は、血相を変えて担任の先生のところへ飛んで行ったのでした。勇気を奮い起こして事実を話した生徒が担任の信頼を得たのはもちろんのことです。嘘はいずればれますが、その前に、正直に話せる勇気を培わせたいものです。

◇民間人「校長・教頭」

教育改革のために民間人を登用したのですが、成果を上げるのは容易なことではないようです。今ではほとんど話題に上らなくなりました。栃木県の民間人校長は、小中高にそれぞれ一人ずつの3人です。教頭(副校長)にはいませんが、教育に関する職の経験があるということなら、小学校に2人(事務員・教諭)います。

民間人校長の登用は屈辱であると話した中学校長がいました。永年の実績が認められ昇格したのであって、素人に務まるような軽い職ではないといった思いがあるのでしょうか。教職経験は不要、あるいは軽視しているから、民間人を校長に登用できると考えれば、屈辱と感じるかもしれません。どんな職業でも経験は大切です。教育理念は永年の経験を通してしか培われなれないと思います。

民間人教頭(副校長)は、全国に7人しかいないのも当然です。教頭だったらできない、また、やる気もないと話した民間人校長がいました。教頭には煩雑で膨大な実務が待っています。教職経験がない人には、かなり厳しい仕事でしょう。

教育改革のためには、民間人よりも文部科学省の職員が校長や教頭をしたらどうかと考えています。県警の本部長や警務部長、捜査二課長といった要職を警察庁からの出向者が務めたり、県の副知事、総務部長、財務課長が総務省からの出向、税務署長が国税庁からの出向といった話を耳にすることがあります。現場を知って教育施策に携わるようになれば、現場が混乱するようなことも少なくなると思います。

ある民間人校長は、自身が実行した改革が百近く(2年半の間に)にもなったと胸を張っていましたが、校長よりも、教職員一人一人が改革に取り組んだら、はるかに成果の上がる改革になるでしょう。

◇学校集会（2月1日＜掃除で心を磨く＞）

20年以上前のことですが、トイレ掃除の生徒が私のところに走ってきました。そして、「先生、先生、大変です。すぐ来てください」と言うのでした。行ってみると、便器の外に大きな落とし物がありました。私は思わずのけ反り後ずさりしたようです。どうしようかと考えあぐねていると、一人の女子生徒が、「私やります」と手を挙げたのです。この生徒によって間もなく、便器はきれいさっぱり元通りになりました。

掃除は自らの心を磨く行為と聞いたことがあります。この生徒の評価は上級生になるにしたがって高まっていきました。そして、1年生の時のこの出来事を知った先生方は、掃除がしっかりできる生徒は、間違いなく立派な生徒であるとの強い思いを抱いたのでした。

数年前のことですが、私は便器に頭を突っ込んだりして1時間以上、ひたすら一つの便器を磨き続けたことがあります。便器はびかびかになりました。人生観が変るような体験でした。人のいやがる便器をきれいにすると心も美しくなれると聞きました。来年度、西中学校の便器を徹底的に磨く機会を設けたいと思います。都合がいたら皆さんも参加しませんか。

◇個性は自ら伸ばすもの

個性の尊重、個性の重視、個性を生かす、個性を育むなど、今まで個性という言葉は何度も耳にしてきましたが、教育活動は本来、一人一人の成長を期して行われるものですから、当然のことなのかもしれません。個性を考慮しないのは問題ですが、一人一人に完璧に対応した教育活動を行うことも現状では不可能でしょう。

個性を育む学校教育、即ち、個性の伸長を学校が図るとの誤解は少なくなってきたように思います。個性とは自分らしさです。個性は、いつの時代も他人によって育まれるものではありません。自ら培い伸ばしていくものです。君の個性を育ててあげます、とでも言ったら怒り出す生徒がいるかもしれません。中学生になってやっと自我に目覚め自分作りが始まります。このような時期にある中学生の多くが、自己の個性を把握できないでいることもあるでしょう。したがって、個性への配慮を忘れずに教育活動することが大切なのでしょう。

◇天下に誇れる教育委員会

今まで私は、モンスターペアレント（学校に理不尽な要求や苦情を言立てる保護者）に思えた保護者に出会ったことがありません。無理難題を押しつけても、子どものためにならないのは明らかで、報道のような問題は、感情の行き違いという部分も大きいのではないかと考えています。モンスターペアレントの対応では、学校と教育委員会の信頼関係も大切でしょう。

足利市教育委員会の学校教育課は、学校を指導監督する立場にあっても、上意下達で事を進めるのではなく、いかにしたら学校の望む手助け、教育活動充実のための支援ができるかがいつも念頭にありと感じます。学校管理課は、年々予算が削られ、要望に応えるには大変な困難があるのに、誠意をもって対応し、月光仮面（疾風のように現れて「さっさと仕事を済ませて」疾風のように去っていく）のように感じています。本市教育委員会は、天下に誇れる教育委員会であると思います。

授業妨害を厳しく叱責すると、「教育委員会に言うから殴れ」と開き直った小学生がいたとのことですが、教育委員会を持ち出せば、教師（鞆）がたじろぐとの考えはあまりにも認識不足です。私は、教育委員会に知られたら困るなどと、恐れたことなど一度もありません。困り事など、職員にどうしても言いにくいなら、教育委員会に言ってほしいと言っているくらいです。先生方もそうしてほしいと思います。